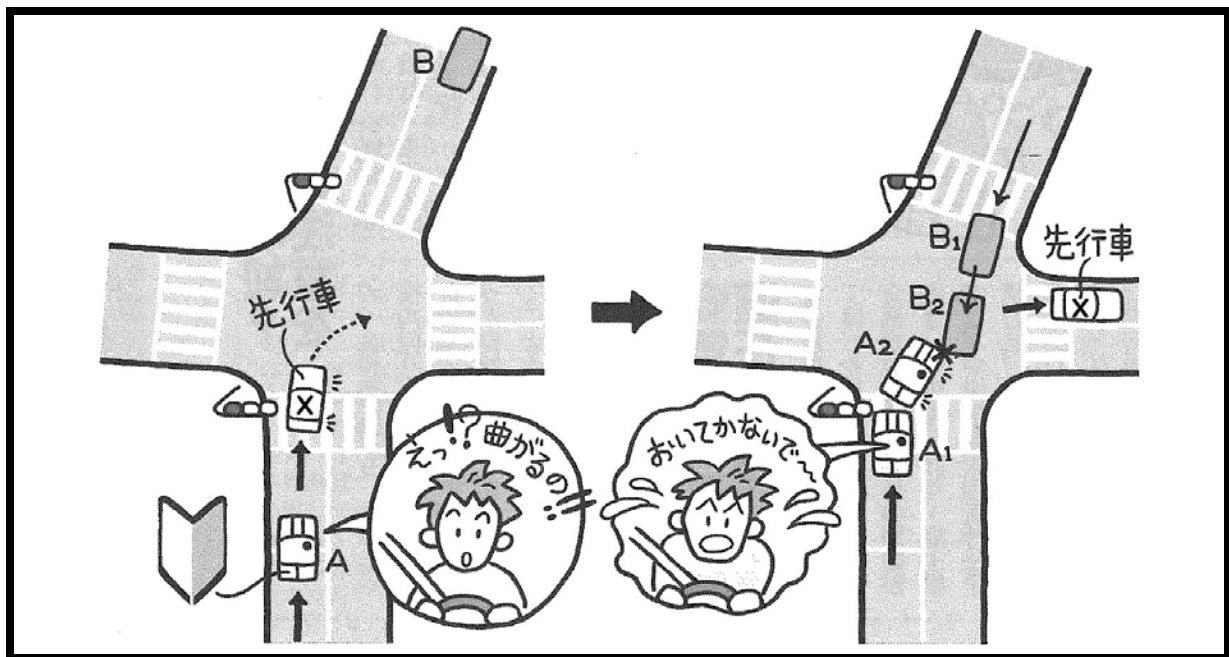


■事故の概況



事故類型：出会い頭

発生日時：午後10時頃

当事者A：普通乗用車 10歳代 男性

当事者B：普通乗用車(年齢、性別不明)

■ 事故の概要

Aは、友人と連れ立って別の友人宅へ行く途中でした。道順は友人が知っているというので友人の車両（X車）についていくこととしたのですが、免許を取得してまだ1ヶ月しか経過していないAにとって、先行するX車についていくのは思ったよりも困難でした。しばらく走った頃、信号のある交差点が見えてきました。この交差点の直進方向の先は少し右に折れており、遠くからでは対向車が来るのかどうかは見にくく、交差点内もしくはその直近まで来れば問題なく対向車を見ることが出来ました。

Aは先行するX車がこの交差点を直進するものと決めてかかっていたところ、X車は方向指示器を1、2回点滅させると交差点を右折してしまいました。

「ここではぐれたら、どこへ行けばいいのかわからなくなる」と考えたAはX車に続いて交差点を右折し始めたところ、対向方向から直進してきたB車と衝突してしまいました。

■ 事故から学ぶ

複数の車両で目的地へ行く場合、数珠繋ぎになって走行するのは危険であるとともに周囲に迷惑をかけます。やむを得ない場合を除いて、再集合は目的地というように決めて走行の方がより安全です。

そうすれば、各車は自分のペースで走行できますから、標識の確認や交差点での安全確認も十分できます。

今回の事例のように道がわからない初心運転者を引き連れて走行する場合には、事前の打ち合わせをして目的地や方向に関する情報を与えておくことや、先行車は右折や左折の合図を早めにするなど後続車が慌てないような配慮をすることが必要です。